

利用者の避難場所ともなる展望の丘づくり

「展望の丘」の整備

- ・展望台、自然とのふれあいや津波経験を学ぶ場として丘を公園施設として整備
- ・住民・観光客の緊急避難場所となる
- ・海辺の森林・自然を住民参加で再生
- ・復興のシンボルとなる

被災した国立公園の利用施設
→復旧(移設・土地造成も含む)

災害廃棄物を分別し
安全なりサイクル材料として活用

避難路と避難広場の機能を持つ公園利用施設を整備

住民参加による森の再生
その地域の広葉樹等による郷土種の森を再生

公園利用施設の復旧の際、
避難路と避難広場が不可欠

公園利用施設
(野営場、トイレ、
駐車場など)



避難路

分別した安全なりサイクル材料を
活用して丘を造成

避難路を
長距離歩道に
接続

後背地

長距離歩道

海

被災を記録・継承するための学びの場とモニタリング

～ 大災害の経験を確実に記録し、次の世代に引き継ぐために～

被災の記録

変化したり失われることから、
迅速に・確実に記録することが必要

植生や地形などの自然環境は、
今後数年～数十年かけて変化し続ける

自然環境(植生、地形(干潟・砂浜)、藻場、動物の分布など)
の変化状況の記録とモニタリング

津波石、被災に耐えた象徴的な自然物(松、杉)など
被災者の体験・知恵を伝える「生の声」
地震・津波の映像

干潟と砂浜の消失



国指定仙台海浜鳥獣保護区(蒲生干潟)
→ 渡り鳥の重要な生息地

アーカイブとして整理し、
多くの人々が活用可能な状態に

これまでも
自然環境保全基礎調査などで、
自然環境を継続して把握

継承するための学びの場

現場で伝える
経験者から伝える
→ 確実に継承

【学びの場づくり】

自然公園・歩道の看板
被害地域を見渡せる展望台
ビジターセンター・展示 など

【学ぶための体制づくり】

エコツーリズムのガイド育成
ガイドプログラムの開発
学校等での防災教育



多くの人に、現場で理解していただき、国民全体で次に備える
地域の復興計画・防災計画への活用
地域振興(エコツーリズム、地元雇用の創出)
学術研究などの基礎資料として活用